

令和 6 年度 東京都立板橋高等学校 学校経営計画

東京都立板橋高等学校長
海 發 真 一

I 目指す学校

本校は、

- 個性や能力を伸ばし、生徒一人一人の自己実現を援助する。
- 自主性を大切に、実行力と創造力に富んだ生徒を育てる。
- 健全な心身の成長を促し、社会的責任を自覚した生徒を育てる。
- 学ぶ喜びを体験させ、生涯にわたって学ぶ意欲・態度を培う。

を教育目標とする全日制課程普通科の学校である。この目標達成とともに、スローガン「この 3 年間で未来につなぐ-Think positive! Be active!-」のもと、スクール・ミッション、スクール・ポリシー、グランドデザインに基づき、学習指導、特別活動（ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動）及び部活動指導をバランスよく行う。また、自らの意志と判断に基づき、目標に向かって主体的に行動できる生徒を育成する。

1 目指す学校像

教科、総合的な探究の時間（含「人間と社会」）、特別活動、部活動の各場面において、主体性をもって学びに向かう力、社会の課題を解決し価値を創造する力、確かな学力、豊かな人間性、健康と体力を育む指導を 3 年間継続し、次世代を担う有為な人材を育成する学校。

- (1) 学習指導の充実に努め、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決力、探究力、創造力を育成し、学力向上を図る学校。
- (2) キャリア教育を推進し、生徒一人一人が将来の在り方生き方を見つめて高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造し、夢をかたちにする学校。
- (3) 文武両道を実践し、学習、特別活動及び部活動に主体的・意欲的に取り組む生徒を育成する学校。
- (4) 心身ともに健康で調和のとれた人間を育成するとともに、人間尊重の精神、規範意識、互いの人格を尊重し豊かな人間関係を築く力、協働性（自己理解・他者理解の力）を育てる学校。
- (5) 教職員がライフ・ワーク・バランスよく、その指導力及び職務遂行能力を十分に発揮し、本校の教育目標や学校経営計画達成に向け、チームワークよく協働できる学校。
- (6) 健康教育の充実と学校保健活動の活性化を図り、生徒の健康や体力の保持増進を図る学校。
- (7) 防災・安全教育を推進し、地域と連携して社会貢献の精神を育む学校。
- (8) 情報を積極的に発信するとともに学校開放等を推進し、保護者や地域から信頼される学校。

2 スクール・ミッション

「生徒一人一人の自己実現の援助」「自主性の尊重」「健全な心身の成長の促進」「学ぶ意欲・態度の育成」を教育目標とし、自発的な学習の推進や部活動の活性化を通じて、授業規律や規範意識の向上を図り、変化の激しいこれからの社会を生き抜く知・徳・体のバランスのとれた人間を育成します。

3 スクール・ポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー

〔目指す生徒像〕社会的に自立し、主体性をもって行動できる生徒を育てます。

〔育成する資質・能力〕《自ら学ぶ力》《他者と協力して課題解決を進める力》《一步前へ踏み出す力》
《規律、健康、生活習慣を意識して生きていく力》

- (2) カリキュラム・ポリシー

- ・学校設定科目の増設により、多様な進路希望に対応していきます。
- ・習熟度別授業、少人数授業など、きめ細やかな学習指導を行います。
- ・ICT機器の活用、読解力と自ら学ぶ意欲の育成、主体的対話的で深い学びの視点を踏まえた授業等、効果的な学習指導を行います。

(3) アドミッション・ポリシー

規律と自主性を重んじる校風の下、生徒一人一人の個性を育む教育をモットーとしています。そこで、本校の特色を理解し、以下の項目に該当する生徒を望みます。

- ・全ての教科に対して、真面目に学習活動に取り組む生徒
- ・社会や学校のマナーやルールをしっかりと守り、他人に対する思いやりのある生徒
- ・自分の将来を真剣に考え、本校での学習活動をその目的の達成に生かす生徒
- ・学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組む生徒

II 中期的目標と方策

1 授業の充実

全ての学習の基盤となる言語能力の育成をはじめとして、**Society5.0** を生きる力（主体性をもって学びに向かう力、論理的思考を行うための読解力、科学的に思考・吟味し活用する力、探究力等）を効果的に育むため、生徒の主体的な学習を促す教材や指導方法を工夫し、授業の充実を図る。また、自学自習や読書活動の推進を通して、確かな学力、豊かな教養、幅広い視野を育む。

さらには、生徒の学力分析や生活状況調査、学校評価、授業評価の結果等から課題を抽出し、組織的なOJTや校内研修等を通して授業力、進学指導力、デジタル技術活用力の向上を図る。

2 進路指導の充実

上級学校説明会等の進路に係る行事を組織的・計画的に行うなど、生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の進路希望実現を図る。

3 生活指導の充実

板橋高校の生徒としての帰属意識を醸成し、挨拶の習慣や生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する。

4 特別活動、部活動の充実

学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動において、高い目標に挑む活動を推進し、生徒の主体性、向上心、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。さらには、自主・自律の力を育み、望ましい生活習慣を確立させるとともに、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図る。

5 生徒が種々の能力を発揮するための基盤となる個人力、集団力の育成

全ての教育活動を通して、豊かな人間性、健康と体力、人間尊重の精神、道徳性・規範意識、文武両道を実践する力、仲間と切磋琢磨する気力、忍耐力、自制心、志（こころざし）、自主性・自律性、向上心、創造力、協調性・協働性（自己理解・他者理解の力）、コミュニケーション能力、社会性、努力を継続できる意志、誠実さ、共感的な学習・生活集団等の「非認知能力」の育成に努める。

6 関係諸機関との連携・学校PR

近隣地域や教育機関との連携・交流、学校設定科目「人間と社会」の活動、学校開放、教育活動に係る情報発信等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

III 今年度の取組目標と方策

○ 教育活動の目標と方策

経営目標達成に向け、教職員が一丸となって生徒主体の教育活動を展開し、以下の目標のもと、方策の確実な履行に努める。

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

教職員が「チーム板橋」の一員として、ライフ・ワーク・バランスよく学校経営計画を着実に履行していく。また、分掌・学年・教科・経営企画室間の連携を強化し、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。

(2) 方策

- ① 学校経営計画に基づき各分掌・学年・教科は互いに連携・協力して、目標達成に向けた分掌・学年運営、教科指導を行う。また、PDCAのマネジメントサイクルを機能させ、改善に生かす。
- ② 各種委員会、校内研修等を通して、職員が協働して教育課題の解決に努める。
- ③ ICT、統合型校務支援システム【C4th】、定期考査採点・分析システム【リアテンドント】の利活用や部活動指導員の導入、会議時間の短縮とともに、計画的な仕事の進め方を通して、業務の効率化、在校時間の縮減に努め、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、男性職員を含め、育休を取得しやすい環境整備を行う。
- ④ 教職員一人一人がその職責を十分に自覚するとともに倫理観や規範意識等をより一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、サービスの厳正に努める。

2 学習指導

(1) 目標

学力スタンダード事業等の実施を通して、生徒の高い進路希望実現を図るため、学力向上を図る授業、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、Society5.0を生きる力（主体性をもって学びに向かう力、論理的思考を行うための読解力、科学的に思考・吟味し活用する力、探究力等）を育む授業を意図的・計画的に推進する。また、保健体育の授業を通して体力の維持向上、健康の保持増進に努める。

(2) 方策

- ① 授業の目標設定を生徒の進路希望実現を意図して明確にし、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題解決力、探究力、創造力を育成する授業を推進する。
- ② 進路希望実現を意図した系統的な科目の履修及び興味・関心の幅を広げる科目の履修を通して、確かな学力や幅広い教養を身に付けさせる。
- ③ 「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」に基づき、一人1台端末やICTサポートツール等のデジタル技術を活用したTOKYOスマート・スクール・プロジェクトを推進し、生徒の主体的な学びを支援して自学自習の力を育む。
特に、学習支援クラウドサービスを活用した自宅学習課題の設定及びその履行率を高める指導を通して、生徒が自主的・自律的に学習に取り組む姿勢や態度を育む。
- ④ 生徒の主体的・能動的な学習姿勢を育むため、アクティブ・ラーニング型授業の推進等、指導方法の工夫に努める。また、土曜日や夏季休業日中の講習実施を通して、生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。
- ⑤ 始業前、放課後の自学自習時間の充実、自学自習スペースの活用促進等を通して、生徒の自学自習（一日当たり、学年＋1時間）を支援する。
- ⑥ 教員相互の授業研究等のOJTを通して、学校全体の授業力向上に努める。
- ⑦ 「東京グローバル人材育成指針」に基づき、外国人指導員JET・ALTの活用やオンライン英会話事業による取組等を通して、生徒が日常的に生きた英語に触れ、英語4技能の向上を図るなど総合的な英語力を育成するとともに、世界の中の一員としての自覚を高め、多文化共生の精神を育む。
- ⑧ 学校図書館を調べ学習や新聞を活用した学習（NIE）、言語活動や探究活動の場として活用し、読書活動とともに、主体的・対話的で深い学びを推進する。また、ビブリオバトル（書評合戦）への参加を通して、表現力、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ⑨ TOKYO ACTIVE PLAN for students（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））に基づき、体力の維持向上、心身の健康の保持増進を図るため、毎時間の体育の授業における筋力トレーニング（一校一取組）の実施等に計画的・効果的に取り組む。
- ⑩ 成年年齢引下げに伴い、生徒自身が在学中からより一層、社会との関わりをもち、社会の一員であることの自覚を深めるため、「私たちが拓く日本の未来」「社会への扉」等の活用を通して、主権者

教育の充実に努める。

3 生活指導

(1) 目標

挨拶の励行、生活規律の確立を図るとともに、社会を生き抜く上で必要な責任感、協調性、コミュニケーション能力、思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。また、部活動や種々の学校行事を通して、主体性、他者と協働して互いに高め合う姿勢や態度を育成する。さらには、道德教育の全体計画、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動を通して、道德教育、安全教育の充実に取り組む。

(2) 方策

- ① 授業規律をはじめとする基本的な生活習慣の確立を図るとともに、挨拶励行、時間厳守に向けた指導、身だしなみ指導を組織的に行う。
- ② SNS東京ルールに準拠した「板橋高校SNSルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ③ 道德教育の全体計画に基づき、全教育活動を通して道徳的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の育成を図る。
- ④ 教育相談部会、学校いじめ防止対策委員会の計画的な実施及びスクールカウンセラー等による面接を通して生徒の悩みの把握及び解決に努めるとともに、精神科医派遣事業を活用し、生命尊重に資する教育やSOSの出し方に関する教育を推進するなどして、生徒の健全育成に向け、学校の相談機能の充実に努める。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的に取り組む。
- ⑥ 特別支援教育の視点に立って、特別の支援が必要なケースには、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等によるケース会議を効果的に機能させるとともに、都立学校発達障害教育推進エリアネットワークの活用を通して、支援体制の充実に努める。
- ⑦ 校内美化に主体的に取り組む生徒を育成する。
- ⑧ 人間尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰・暴言等の防止に組織的に取り組む。
- ⑨ 学校安全計画の全体計画に基づき、「地震と安全」「防災ノート」「東京マイ・タイムライン」等の活用を通して、避難訓練、安全講話、防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する力や、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する。

4 進路指導

(1) 目標

組織的・計画的なキャリア教育を通して、将来の在り方生き方を見つめて高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造し、夢をかたちにする力を育むとともに、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として全教員で行う。

(2) 方策

- ① 進路指導に係る取組のより一層の充実に努め、進路指導部・学年・教科が一体となった進路指導を計画的に行う。
- ② 自己の将来の在り方生き方に思いを馳せ、高校卒業後のキャリア・ビジョン（進路希望）を創造する力を育むため、キャリア教育を組織的・計画的に行う。
- ③ 生徒に高い進路目標をもたせモチベーションを高めるとともに、学力分析や志望校検討の機会を活用し、進路希望実現に向けたきめ細かな指導を行う。
- ④ 進路ガイダンス、大学説明会等の実施を通して、生徒一人一人の高い進路希望を創出していく。また、講習の計画的実施、自学自習スペースの利用促進等を通して、難関に挑む意欲を高めていく。
- ⑤ 生徒に学力テストを受ける意義を自覚せざるとともに、生徒が個人の弱点や課題を把握し、学力向上のための学習方法を具体化し実践できるよう、学力テスト結果に基づく指導を効果的に行う。
- ⑥ ホームルーム担任による個人面談・三者面談、進路指導部による進路相談等、面談・相談機能の充

実を図り、生徒の進路意識の啓発に努める。また、生徒・保護者への進路情報の提供を通して、学校、生徒、家庭が一体となった進路指導を行う。

⑦ 団体戦の意識を醸成するため、学年集会等を通して、生徒のモチベーションの維持・向上を図る。

5 特別活動・部活動

(1) 目標

集団活動を通して、板橋高校の生徒及び社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に計画的に取り組む。

(2) 方策

① 学校行事では互いに高め合う集団づくりを意識し、帰属意識や参加する喜び、創り上げる楽しさを実感できるよう、指導方法を工夫する。

② ホームルーム活動では望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育む。

③ 東京都教育委員会運動部・文化部活動の在り方に関する方針に基づき、生徒にとって望ましい部活動の実施環境を整える。

④ 部活動では部員同士の連帯感を深め、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。また、文武両道を指導し、学業との両立に努めさせる。

⑤ 「都立高校における部活動改革パイロット校」(男子バレーボール部、卓球部)「Sports-Science Promotion Club」(陸上競技部)の指定を活用した委託先指導者等との連携、部活動指導員の配置、部活動振興予算重点配付を活用し、部活動の活性化、競技力の向上、体力の維持向上及び心身の健康の保持増進、豊かな人間関係づくりに組織的に取り組む。

⑥ 生徒会活動では、よりよい学校生活づくりに参画し、協力する姿勢や態度を育む。

6 募集・広報活動

(1) 目標

板橋高校の教育実践を広く都民、中学生に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を促進する。

(2) 方策

① ホームページで学校の特色を積極的に発信し、更新頻度を高めて本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に発信する。

② 学校訪問者への本校の特色や教育活動の様子に係る理解を促進するため、授業及び部活動の成果展示を校内で行う。

③ 全教職員の連携・協力のもとに授業公開、学校説明会を計画的に実施し、入学したい学校、受検したい学校とする。

IV 数値目標

(1) 卒業時の進路決定率を90%以上とする。(前年度95%)

(2) 卒業時の4年制大学への進路決定率を52%以上とする。(前年度52%)

また、中堅私大(日東駒専)合格者数を20名以上とする。(前年度16名)

(3) 学校評価における学習指導、生活指導、進路指導、学校生活、部活動の肯定的評価(生徒の満足度)を80%以上にする。(前年度 学習指導70%、生活指導(遅刻をしない・時間を守る・身だしなみを整える姿勢の自己評価)73%、進路指導77%、学校生活74%、部活動71%)

(4) 部活動加入率を75%以上とする。(前年度73%)

(5) 入学者選抜応募倍率を推薦4.0倍以上、第一次募集1.5倍以上にする。

(前年度 推薦5.00倍、第一次募集1.57倍)

(6) 東京都体力・運動能力調査の体力合計点平均値を、東京都平均以上とする。

(前年度 男子、女子ともに東京都平均をやや上回る)